

松原小学校跡で見つかった丹比大溝

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)



▲昭和35年(1960)当時の丹比大溝発掘地(松原小学校南側、卒業アルバムより)



▲丹比大溝から出土した須恵器(松原市教育委員会提供)



▲ゆめニティまつばら南側の「丹比大溝」案内板(上田3丁目)



▲松原小学校正門前「中高野街道」案内板(上田5丁目)



▲河内松原駅前の「旧松原小学校跡地」記念碑(上田3丁目)

七世紀後半の飛鳥時代の大溝
国家的規模の大土木工事の掘削

近鉄河内松原駅南側ロータリーの松原駅前郵便局前に円筒形をした二基のモニュメントがあり、青銅製の碑文とレリーフがはめこまれています。

碑文は「旧松原小学校跡地」とあり、「明治七年(一八七四)に上田村の願正寺、福心寺(歴史ウォーク 136、210)を借りて創建された松原小学校は、明治四十一年(一九〇八)この場所に建設され、永年、生徒を育てて来ました。昭和四十七年(一九七二)生徒数増加、自動車騒音公害により新堂二丁目の下の池埋立地へ移転しました。平成六年(一九九四)三月と刻まれています。

レリーフは、正面である東校舎をバックに躍動する児童たちを生き生きと浮き出しています。

現在、駅前ロータリーやゆめニティまつばらの建つ地に松原小学校があり、長年にわたって歴史を育んできたことを記しているのです。移転地は新堂や上田の反正山地区などの田畑の灌漑池である下の池を埋め立て、昭和四十七年に再スタートしたのでした。

現小学校正門は下の池の堤に位置し、前の通学路は、新堂と反正山地区の境界にあたり、中高野街道の古道が走っています。平野(大阪市平野区)方面から高野山(和歌山県)へ向かい、平

安時代ごろから利用されていました。松原の歴史を知る会やまつばら木工クラブは、正門前に「中高野街道」の案内板を建て、歴史街道を顕彰しています。

私事ですが、私は昭和三十五年(一九六〇)に松原小学校を卒業しました。左端の写真は、卒業前にクラス仲間たちと撮った卒業アルバムのカットです。当時、小学校南校舎の南側は笹や柴などの雑木におおわれており、東西には自然水路が流れ、その前は田畑が続いていました。

小学校の移転後、ゆめニティまつばらが平成五年(一九九三)にオープンしましたが、同地が旧石器時代から近世までの複合遺跡である上田町遺跡の範囲に含まれていましたので、建設前に発掘調査が行われたのです。

卒業アルバムの際に撮影された地には、立体駐車場や都市計画道路(市道松原駅前南線)ができるため、自然水路や田畑を中心に調査が行われました。

調査地は、標高二四メートルほどの微高地でした。耕作土の下からは、北東の東除川から取水したと思われる湾曲しながら西方へ向かう幅約十メートル、深さ約三メートルの断面V字状を呈する大溝が延長一〇〇メートルにわたって検出されたのでした。復元すると、西方の西除川まで延びていた可能性が考えられます。

大溝は、立体駐車場付近から南西にも分流し、今もなごりの流路が駐

輪場前の「西本翁功勞碑」(大正十年四月建立、大字上田)西側に見られます。流れは、松原小学校が移転した下の池あたりに通じていたようです。分流量では、径五センチ、現存長十五、二〇センチの杭が三列以上にわたって打ちこまれています。

大溝からは円筒埴輪、土師器、須恵器、木製品などの遺物が出土し、飛鳥時代の七世紀後半ごろのものでした。

同地は、古代には丹比地方とよばれていましたので、発見された一四〇〇年前の溝は丹比大溝と名づけられました。流路が付近一帯の灌漑水路なのか、あるいは当時の海の玄関口である難波(大阪市中央区)から都が置かれた飛鳥地方(奈良県明日香村)に通じるための運河であったのかは判明しません。しかし、国家的規模の大土木工事が行われていたことが推測されるのです。

大溝は、八世紀代に一度溝ざらえが行われ、新しく杭も打ち込まれていました。また、中世の素掘り井戸が二基見つかり、中世後半以降は人為的に埋められていったことが想定されます。ただ、所々に今日に至るまで水路の遺構が見られ、田畑を潤してきました。

松原の歴史を知る会とまつばら木工クラブは、ここでも「丹比大溝案内板」をゆめニティまつばら南側の植え込みを設置し、顕彰につとめています。